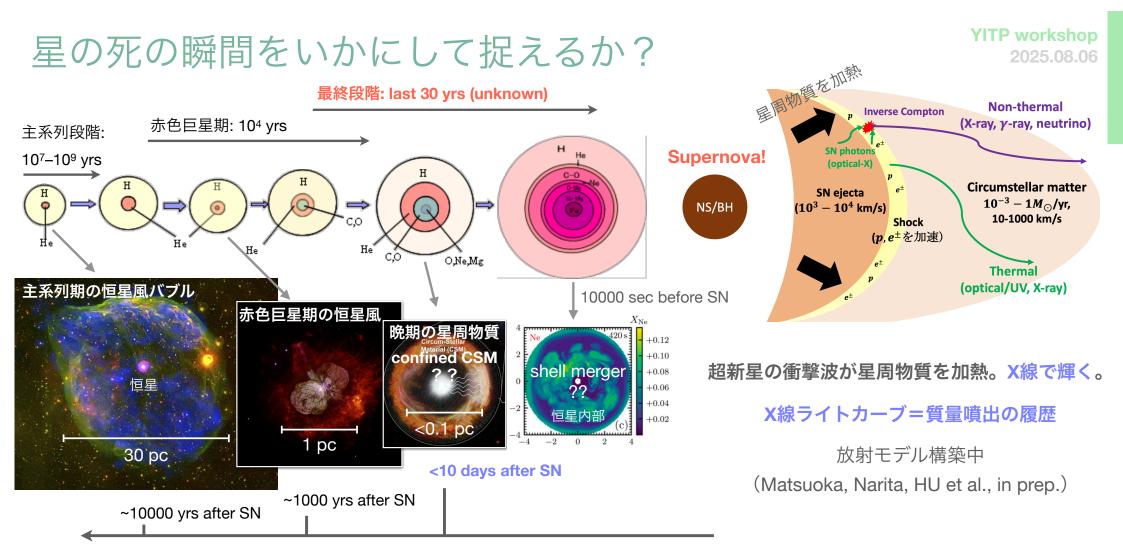
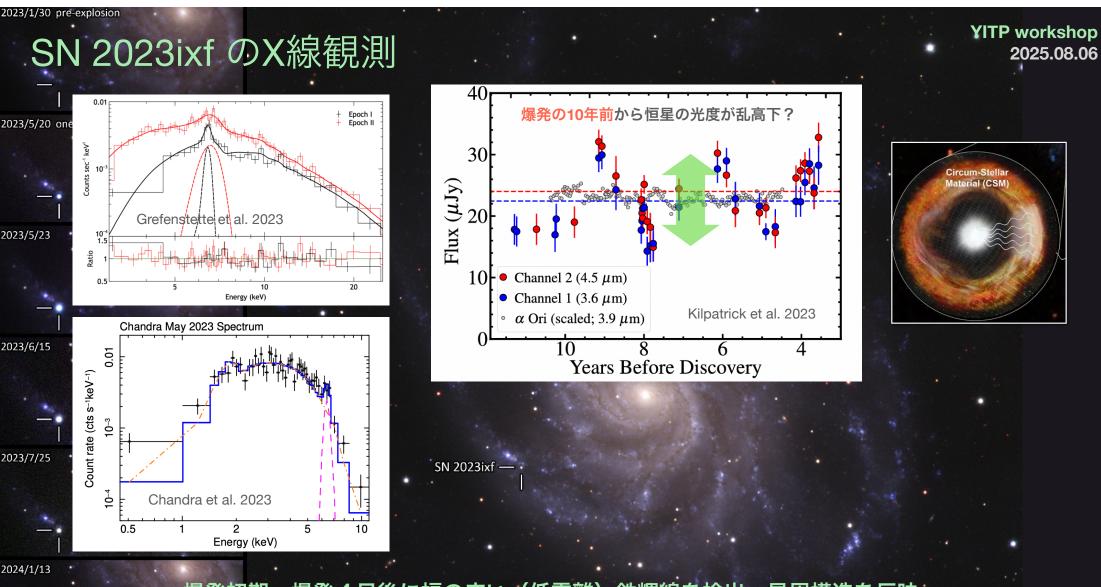
# Toward Rapid Supernova Follow-ups and Future Neutrino-X-ray Multi-messenger Strategy

Hiroyuki Uchida (Kyoto University), on behalf of AMANE

Yudai Suwa, Akihiro Suzuki (The University of Tokyo), Teruaki Enoto, Keiichi Maeda, Roger Wendell (Kyoto University), Hiromasa Suzuki (University of Miyazaki), Yoshiaki Kanemaru (ISAS/JAXA), Masamitsu Mori (NIT, Numazu College) Yusuke Koshio, Fumi Nakanishi (Okayama University), Motoyasu Ikeda, Yudai Suwa, Guillaume Pronost, Hiroyuki Sekiya, Masayuki Nakahata, (The University of Tokyo)



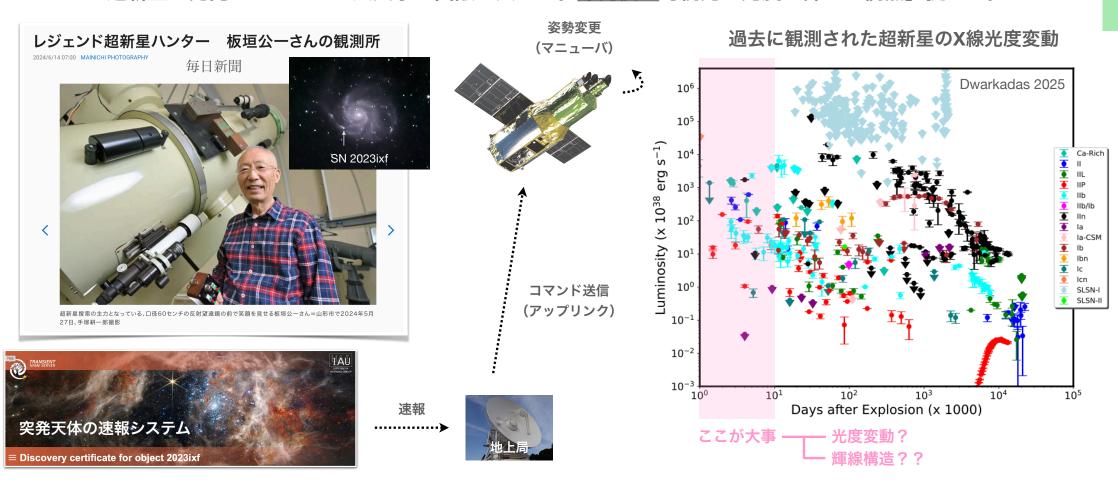
超新星爆発の 30 yr 前からの恒星の活動史の謎=爆発から数日以内のX線観測が鍵



爆発初期、爆発4日後に幅の広い(低電離)鉄輝線を検出。星周構造を反映。

### 超新星の即時/即応観測の難しさ

超新星の発見はアマチュア天文家の貢献が大きい。爆発後の可視光の光度上昇を「偶然」捉える。



爆発から10日以内のX線観測はまだまだ希少。高統計観測・輝線分光したい。XRISMで観測できないか?

#### XRISM による超新星の即応観測

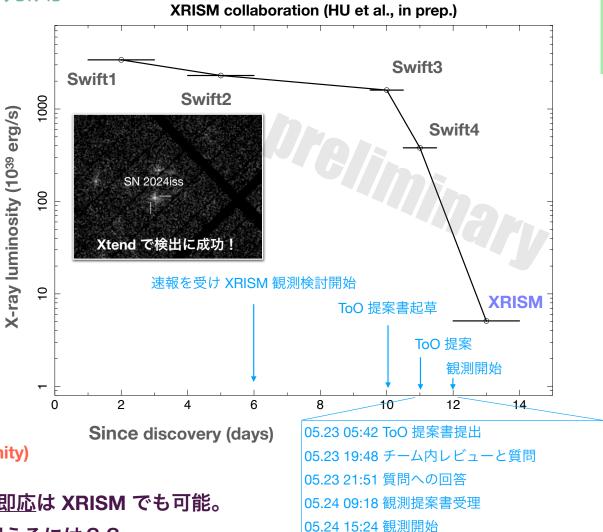
XRISM の "Generic ToO" という枠組みを使う。





- o SN 2023ixf, 2023.5.19 → 爆発前観測 (Matsunaga, HU et al. 2023)
- o SN 2024ggi, 2024.4.11 → 爆発前観測 (Komura, HU et al. 2024)
- SN 2024iss, 2024.5.12 → XRISM ToO (Target of Opportunity)

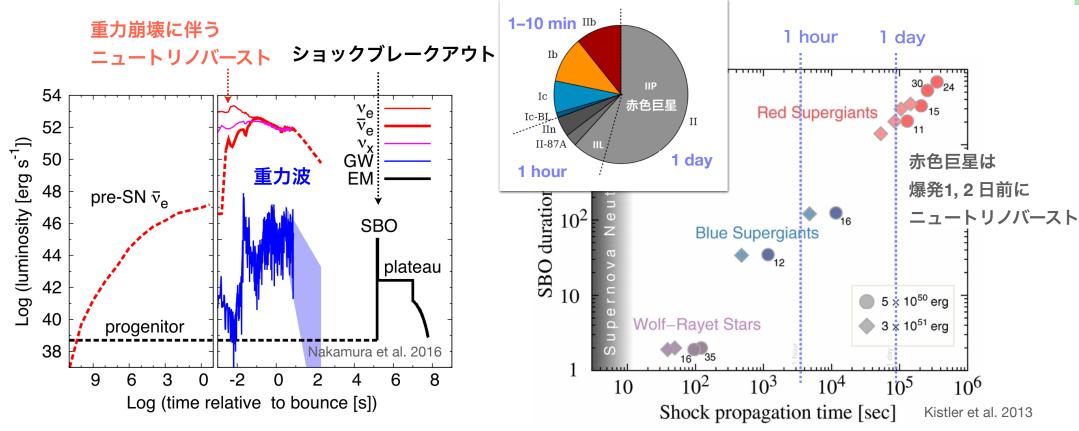
発見から10日以上かかってしまったが、、、<u>数日の即応</u>は XRISM でも可能。 数日より速い観測=真に爆発の瞬間を捉えるには??



6/12

#### ニュートリノ連携 "史上初" 待ち受け観測

重力崩壊の直後にニュートリノバースト発生 → 衝撃波が恒星表面に出てくるまで猶予がある(外層のサイズによる)。

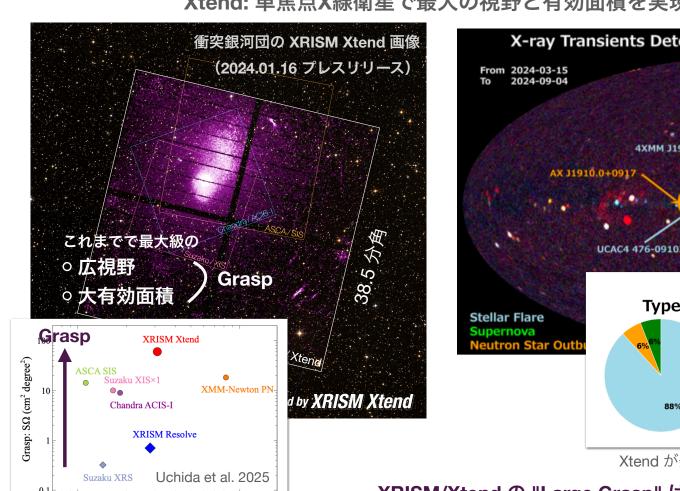


ニュートリノ=崩壊の時刻・熱の情報、重力波=星の回転・密度構造、紫外・X線=爆発時刻・星周環境

Suepr Kamiokande からニュートリノアラートを受け取り、爆発前から待機観測を行う。

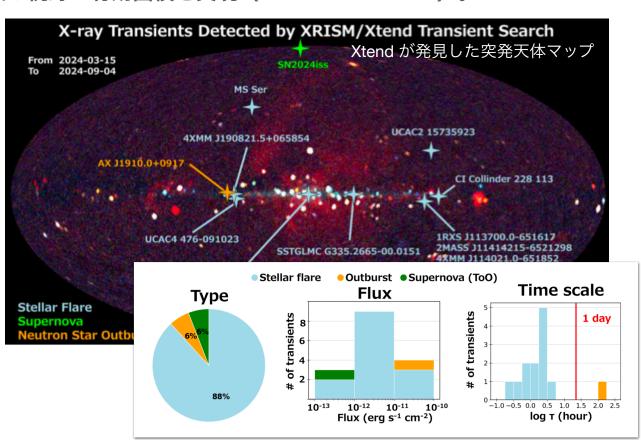
#### XRISM 搭載 Xtend を利用した突発天体観測

Xtend: 単焦点X線衛星で最大の視野と有効面積を実現(Uchida et al. 2025)。



100

On-axis effective area (cm<sup>2</sup>)



Xtend が発見した突発天体の内訳:恒星フレアが最多。

XRISM/Xtend の "Large Grasp" は突発天体の追観測・発見に有利。

SK の方向決定精度の不定性を Xtend の広い視野でカバー → Resolve で精密分光

# "史上初"に向けて — XRISM の観測戦略素案

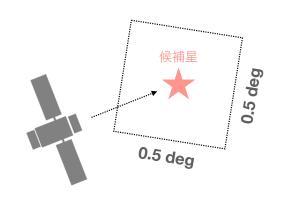
0.1 kpc

KamLAND/SK からの Si 燃焼前兆ニュートリノ

1-10 kpc

SK-Gd/HK からのニュートリノバースト SK-Gd/HK からのニュートリノバースト

>10 kpc



ポインティング観測

巡回マニューバ

方向決定精度 r=3.7 deg 120 \*

タイリング(走査観測)

※太陽角制限等のない近傍星を指向

※距離と方向から絞り込んだ数天体を見る

※広範囲を走査しつつ待機

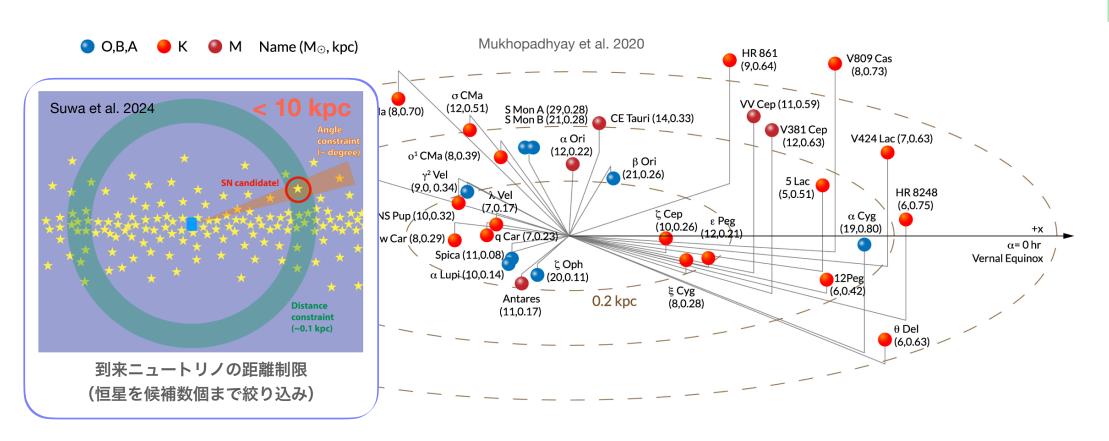
7 dec

飛来ニュートリノ数 N 等によってアラートの種類を選別。"Golden"(かつIBD>10) は数分で公開(GCN Notice)。 MOUを結べば、要求する False alarm rate(例えば数年に1回等)の Low level alert を受け取ることが可能。

超新星の発生した距離に応じて異なる戦略が必要。特に近傍で候補星を特定できれば single pointing。実現可能!

### 近傍で超新星が起きたの場合の観測戦略

ニュートリノの事前アラート+赤色巨星リストによる絞り込みで観測可能性を向上。



2024年度より、SK SN conveners(関谷さん、中畑さん、池田さん、小汐さん他)と打ち合わせを開始。 迅速な XRISM 運用に向けて、JAXA 運用チームとも折衝を開始。

# X線とニュートリノ観測の連携 MoU (2025.05)

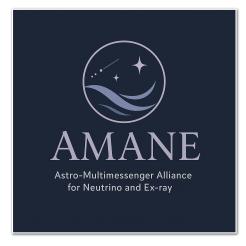




#### Astro-Multimessenger Alliance for Neutrino and Ex-ray (AMANE) 結成!



Motoyasu Ikeda, Guillaume Pronost, Hirokazu Ishino, Yosuke Kataoka, Yusuke Koshio, Atsushi Takeda



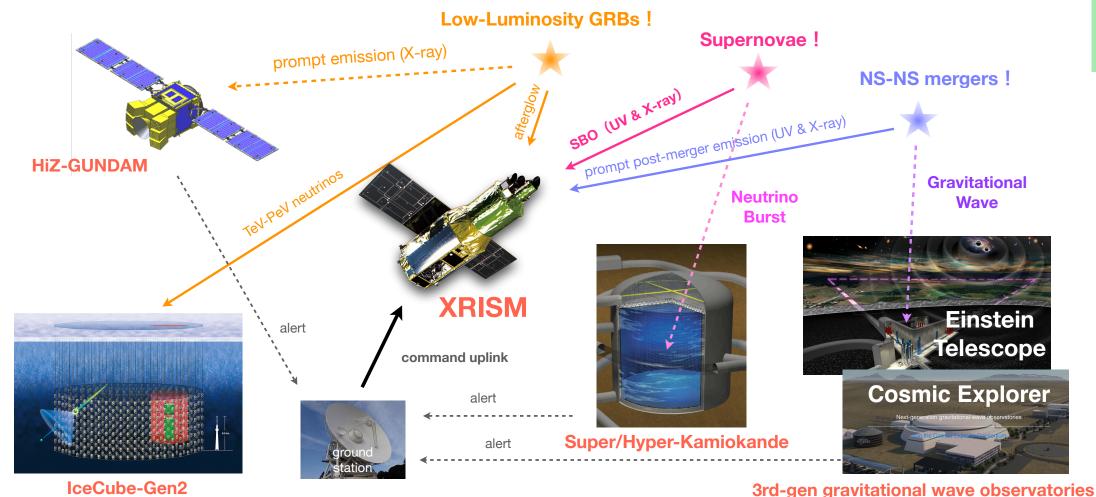
Hiroyuki Uchida, Yudai Suwa, Akihiro Suzuki, Teruaki Enoto, Keiichi Maeda, Roger Wendell, Hiromasa Suzuki, Yoshiaki Kanemaru, Masamitsu Mori

Motoyasu Ikeda

Hiroyuki Uchida

AMANE と SK SN conveners 間で連携のための MoU 締結(2025.5.22)。 今後:ニュートリノアラートを受けた即時観測体制の構築、XRISM の観測戦略の具体化、可視光望遠鏡との連携、爆発直後のX線ライトカーブ予測、、、

### 2030年代の時間軸・マルチメッセンジャー天文学へ



年間~60の超新星 etc. +稀な重要事象の即時観測:2030年代のニュートリノ/重力波観測との連携を強化。 IceCube とも議論を開始。HiZ-GUNDAM 開発にも参入。可視・赤外グループとの連携も予定。

## 長年の未解決問題だった超新星の爆発機構について 直前~10年の活動歴が解明の鍵かもしれない。

これまで困難だった超新星爆発の直後 ~1日以内の観測がほしい。 ニュートリノによる待ち受け観測は大きな breakthrough をもたらす。

日本が打ち上げた最新の衛星 XRISM に搭載の Xtend を利用して「次」が起きる前に即応観測体制を整えておきたい。

for Noutring and Everav

AMANE "天音" をよろしく!